

日本経済新聞 2003年(平成15年)6月16日(月曜日)

本人認証のシステム開発

加盟店で安心してショッピング
マスターカード

国際電気通信連合 (ITU) はブロードバンド (高速大容量) 通信の料金の安さと速さの総合評価で日本は世界一と発表した。しかしインターネット普及率は世界第十二位。インフラは整っているが、日本の消費者はそれを享受していないのが現状だ。現在、インターネットでのクレジット決済は署名が必要ない。そのため本人認証が確実ではなく、消費者の多くが不安を抱いている。マスターカードの調査によると、オンラインショッピングをしない人の90%が「個人情報の流出を恐れているという。

このような不安を解消するためにマスターカードが開発したのが SecureCode™ だ。MasterCard®クレジットと Maestro®デビットの両方に対応可能。特徴は認証方法をカード会社が選択できる点だ。

認証方法は PC 認証プログラム チップ認証プログラム 3D Secure 対応プログラムの3種類。の方法ではアプレット (電子財布) を PC にダウンロード、の方法ではアプレットを EMV チップ (IC カード) にダウンロードする。の方法は、アプレットをダウンロードする必要がなく、利用者にとって最も利便性の高い方式。カード保有者はカード会社指定の PIN (暗証番号) もしくはパスワードを入力し、本人認証を行う。これにより高いセキュリティ性を実現。消費者は、SecureCode™ ロゴ表示のある加盟店で安心してオンラインショッピングを楽しむことが可能。たとえ安価で高速なインターネットでも心配ならば使わない。そんな日本の消費者を安心させることが電子取引市場 (BtoC) 拡大の近道ようだ。